

2023年度久万美コレクション展Ⅱ

開館35周年記念

2024年 1月7日(日)～5月12日(日)

【開館時間】9:30～17:00(入館は16:30まで)

【休館日】

月曜日(ただし、1月8日、2月12日、4月29日、5月6日は開館)、
1月9日(火)、2月13日(火)、3月21日(木)、4月30日(火)、
5月7日(火)

【観覧料】

一般 500(400) 円、高大生 400(320) 円、小中生 300(240) 円

※()内は20名以上の団体料金。※高齢者(65歳以上)、障害者手帳をお持ちの方は証書・手帳等の提示で半額。身体障害者手帳提示の場合、付添い1名も半額。

※3月23日(土)は開館記念日のためどなたも無料。

久万美コレクションにみる

顕神の夢

KMA Kuma Museum of Art
町立久万美術館

木下晋《願望Ⅱ》1993年



顕神の夢

久万美術館では、2023年10月21日から12月24日まで「顕神の夢—幻視の表現者— 村山槐多、関根正二から現代まで」を開催しました。この展覧会では、自己を超えた「何か」を捉えるべく、身を焦がす思いで制作する表現者たちの心情を「顕神の夢」と名付け、「人間を超越した『何か』を感知表現すること」をテーマに多様な作品を紹介しました。

今回のコレクション展では、当館の所蔵作品の中から、「顕神の夢」という趣旨によって選定した作品をご紹介します。

幻視や幻覚といったかたちで「何か」を感じた者たちは、受け取ったものを自身の作品に反映させます。「何か」を求め幻視することを制作のモチベーションとした村山槐多(1896-1919)、長野の自然の中に「何か」を見出した河野通勢(1895-1950)、自身の内側の情動を描こうとした萬鐵五郎(1885-1927)、身近な風景をまるで別世界のように描いた三輪田俊助(1913-2015)らの作品を展示します。

また、「何か」に突き動かされて制作に向かう姿勢や、常人を超越した制作行為そのものを「顕神の夢」のひとつの側面と捉えました。三輪田米山(1821-1908)は泥酔し、自我をなくした状態で筆をとったといいます。これは、自身でも予測できない境地に立つことで表現される「何か」を期待していたためだといえるでしょう。木下晋(1947-)は、「モデルの内面世界に裏付けされた表層を描く」ため、徹底的に対象と向き合い、人間という存在を捉えようとしています。多和圭三(1952-)は、ひたすら鉄を叩き、作品を制作します。その途方もない繰り返しの行為によって、鉄は無機質な塊から新たな表情を持つ別の存在へと変容します。

新たな視点から当館のコレクションをお楽しみください。

2

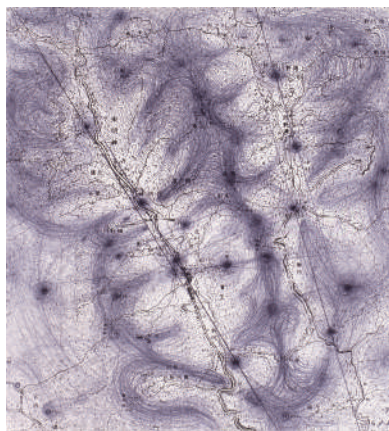
3



1



4



5

1. 三輪田米山《思無邪》明治後期
 2. 古茂田守介《芦ノ湖》1960年
 3. 多和圭三《無題》1992年
 4. 萬鐵五郎《T子像》1926年
 5. 戸谷成雄《ドローイング「クマ」》1993年
- すべて町立久万美術館蔵

関連事業

●無料開放デー

日時 3月23日(土) 9:30~17:00(入館は16:00まで) ※開館記念日のためどなたも無料です。

●学芸員解説

日時 1月28日(日)、2月12日(月・祝)、3月23日(土)、4月28日(日)、5月11日(土) 各14:30~15:00

※申込不要、要観覧券

交通案内

【JRバス】松山から70分(ほぼ2時間毎、土・日・祝運休あり)予讃線松山駅から久万高原行「久万中学校前」下車徒歩約10分

【車】松山市内から国道33号線で約50分、高知市内から約2時間。松山自動車道松山ICから国道33号線を高知方面へ約30分、久万中学校前交差点を左折、県道12号線(西条久万線)を0.8km東進、右側。駐車場45台(無料)

町立久万美術館

〒791-1205 愛媛県上浮穴郡久万高原町菅生2番耕地1442-7

電話:0892-21-2881 / FAX:0892-21-1954

<https://www.kumakogen.jp/site/muse>



KMA

Kuma Museum of Art

